

高等部(知的障害)のキャリア発達に基づく「職業教育の学習活動表」と指導方法の構築

メタデータ	言語: ja 出版者: 静岡大学 公開日: 2013-01-09 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 渡辺, 明広 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10297/6984

科学研究費補助金研究成果報告書

平成24年5月30日現在

機関番号：13801

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21531023

研究課題名（和文） 高等部（知的障害）のキャリア発達に基づく『職業教育の学習活動表』と指導方法の構築

研究課題名（英文） “Learning activity table about work study” and way of instruct based on career development at the upper secondary department of a school intellectually disabled students

研究代表者

渡辺 明広 (WATANABE AKIHIRO)

静岡大学・大学院教育学研究科・教授

研究者番号：30310923

研究成果の概要（和文）：

キャリア発達、すなわち職業的（進路）発達にかかわる諸能力を育成する視点から、特別支援学校（知的障害）高等部の職業教育（作業学習）について、「職業教育（作業学習）の学習内容活動表」の作成を試みた。このため、A特別支援学校高等部の作業学習で実施されているもの作り（製作・生産）の学習内容と流通・サービス（商品管理・販売・事務）の学習内容について、「職業的（進路）発達にかかわる諸能力」と「育てたい力（観点）」との関連付けを行った。この結果、キャリア発達の視点から目標の設定、学習内容の選定、授業の進め方を検討するための知見を得た。

研究成果の概要（英文）：

I tried to make a “learning activity table about work study” about work study at an upper secondary department of a school intellectually disabled students from a perspective of training of abilities of career development, that is, vocational (career choice) development.

For this, I related “abilities of vocational (career choice) development” to “abilities (point of view) to grow” about the study programs of craftsmanship (manufacture/production) and circulation/ service (merchandise management, sales, office work) which are carried in an upper secondary department of a school intellectually disabled students.

As the result I acquired knowledge to think about difining goals, selecting study programs, and how to build classes from a perspective of career development.

choice) development or “abilities (point of view) to grow”-

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
平成21年度	800,000円	240,000円	1,040,000円
平成22年度	500,000円	150,000円	650,000円
平成23年度	100,000円	30,000円	130,000円
総計	1,400,000円	420,000円	1,820,000円

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目： 教育学・特別支援教育

キーワード：特別支援教育、キャリア発達、職業教育、学習活動表

1. 研究開始当初の背景

職業教育は進路指導とともに、キャリア教育の中核をなすものであるが、通常学校の職業教育においては、専門的な知識・技能を習得させることのみ重点が置かれがちであった、との指摘がある（「キャリア教育の推進に関する総合的調査研究協力者会議 報告書」； 児童生徒一人一人の勤労観、職業観を育てるために」（2004）。この指摘は特別支援学校（知的障害）においても同様であると考えられ、木村らは、今後は各障害の特性に応じたキャリア教育の具体的な推進方策を検討していく提案をしており（木村宣孝「特熱支援教育とキャリア教育—知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表」作成の試み」（2007））、キャリア教育の視点から職業教育、進路指導の充実を図ることを目的とした、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表（試案）」を作成した。これは、国立教育政策研究所生徒指導研究センター（2002）による職業的（進路）発達にかかわる4領域の諸能力について、児童生徒の「職業的発達段階」と「職業的発達課題」が整理されている。児童生徒の早期からの一貫性、系統性のあるキャリア教育を推進するための枠組みであり、各学校、地域における実践に活用され検証されていくことを今後の課題としている（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所「知的障害者の確かな就労を実現するための指導内容・方法に関する研究」（2008））。これに対して、本研究は、本研究者のこれまでの研究成果に基づき、企業就労を目指す高等部教育の中核である職業教育（作業学習）に焦点化し、職業的（進路）発達にかかわる諸能力を育成するキャリア発達の視点から、高等部3年間での学習内容を盛り込んだ、「職業教育（作業学習）の学習活動表」の作成を試み、さらに、一人一人の個別の指導計画に基づき、職業教育と進路指導（現場実習・進路体験、進路相談、進路学習）との関連によって進められる指導・支援の方法の構築を図るものである。

2. 研究の目的

本研究は、キャリア発達、すなわち、職業的（進路）発達にかかわる諸能力を育成する視点から、卒業後の企業就労を目指す、特別支援学校（知的障害）高等部の職業教育（作業学習）について「職業教育（作業学習）の学習活動表」の作成を試みる。その後、職業教育と進路指導（現場実習・進路体験、進路

相談、進路学習）との関連で進められる指導・支援方法の構築を図る。

3. 研究の方法

本研究は、特色あるカリキュラムモデルによる教育実践を行う特別支援学校からの聞き取り調査と関係資料の蒐集等を行うことで、キャリア発達の視点からものづくり教科と「流通・サービス」科の学習内容の質的、及び量的検討を行い、「職業教育（作業学習）の学習活動表」の作成を行う。その後、「職業教育（作業学習）の学習活動表」と進路始動との関連による、実施、評価、改善を行い、指導・支援方法の構築を図っていく。

4. 研究成果

キャリア発達の視点からみた、特別支援学校（軽度知的障害）高等部の作業学習におけるものづくり（製作・生産）と「流通・サービス」（商品管理、販売、事務）の学習内容の分析—学習内容と職業的（進路）発達にかかわる諸能力や「育てたい力（観点）」の関連づけをとおして—

I. 目的

軽度知的障害生徒を対象とした特別支援学校高等部の作業学習で実施されている、もの作り（製作・生産）や「流通・サービス」（商品管理・販売・事務）の学習内容と職業的（進路）発達にかかわる諸能力や育てたい力（観点）との関連付けを行う。その結果に基づき、作業学習の単元（題材）の目標設定、学習内容の選定、及び授業の進め方について、キャリア発達の視点からを検討する。

II. 方法

1. 対象：A校

<プロフィール> 高等部単独校（生徒数 54 名）。普通科。卒業時点での企業就職を目指し、作業学習は園芸、窯業、木工、縫製、印刷の5つの作業班で行う。作業学習の年間授業時数の割合は 33.3%（350/1050×100）である。各作業班の学習内容は製作・生産が中心だが、もの作

りに付帯する商品管理・販売・事務の専門教科〔流通・サービス〕の内容を多く取り入れている。

2. 分析の手順

(1) 関連付けを行った者

知的障害養護学校(現在、特別支援学校)の中学部と高等部で教職経験のあった筆者と、筆者が依頼した、特別支援学校教諭で作業学習を担当し、『キャリア発達段階・内容表(試案)』を習熟した2名の計3名が関連付けを行った。

(2) 年間の題材・題材目標・学習内容の一覧表の作成と関連付けの進め方

① A校の2007年度の研究紀要や年間学習計画、学習指導案を閲覧し、各作業班の題材(授業)において「知的障害のある児童生徒の『キャリア発達段階・内容表(試案)』」の観点の要素が含まれていると考えられる学習内容を抽出した。

② ①と並行して授業参観を行い、教務主任、各作業班の担当教師から、学習内容や授業の進め方などについて聞き取りをした。

③ 学習指導要領の内容と整合性をとりながら、①、②をもとに各作業班の年間の題材・題材目標・学習内容の一覧表を作成した。

④ ③で作成された一覧表をもとに、3名による各作業班の学習内容と諸能力や観点の関連付けを行った。関連付けを行うための基本事項の打ち合わせをし、また、目標や学習展開などで不明な点については、A校に問い合わせ、授業者の意図との整合性を図った。位置付けた諸能力や観点が3者で異なる場合は、合議により決定した。なお、「キャリア発達段階・内容表(試案)」は2008年度、2009年度の研究によって改訂され、小学部14観点、中学部15観点、高等部16観点となったが、本稿は前研究の観点に基づき実施した。

(3) 実施期間 2009年10月～2010年1月

Ⅲ. 結果

1. 5つの作業班の年間の題材と目標、学習内容

A校の各作業班の1年間の題材数は6～8つで、各題材の中で取り扱われる学習内容の合計数は28～34であった(同一の学習内容はカウントしない)。5つのいずれの作業班も、年間の授業の大半はもの作り(製作・生産)の作業活動であって、教科〔職業〕及び〔家庭〕の目標と内容に準拠した学習内容が選定され、文化祭バザーなどでの販売を目指した、分担作業による大量製作・生産に取り組んでいた。これに加えて、バザー当日とその前後に、教科〔流通・サービス〕の商品管理、販売、事務の内容が扱われていた。もの作りの学習内容の数は5つの作業班で合計114であり、〔流通・サービス〕の学習内容の数はちょうど半分の57であった。

2. 学習内容と職業的(進路)発達にかかわる諸能力(領域)、観点の関連付け

(1) 5つの作業班の学習内容と職業的(進路)発達にかかわる諸能力(領域)の関連付け

もの作りの114の学習内容のうち、情報活用能力に関連付けされたものは53であって、全体の半数近くの46.5%を占めた。意思決定能力と将来設計能力はほぼ同数でそれぞれ全体の4分の1近くを占めたが、人間関係形成能力は7(6.1%)のみであった。

〔流通・サービス〕の57の学習内容も、もの作りと同様に情報活用能力が多く、半数を超える52.6%を占めた。人間関係形成能力が15(26.3%)あるのが特徴的で、将来設計能力と意思決定能力は6(10.5%)ずつであった。もの作りと〔流通・サービス〕のそれぞれの学習内容と諸能力との関連付けの状況については、有意な差が認められた($\chi^2(3)=0.000255, p<.001$)。

(2) 5つの作業班の学習内容と「育てたい力」(観点)の関連付け

既述したように、もの作りと〔流通・サービス〕の両方の学習内容は情報活用能力に関連付けされるものが多いが、「キャリア発達段階・内容表(試案)」の観点については、ほとんどの学習内

容が情報収集と活用に関連付けられた。情報収集と活用は、当該の作業活動についての様々な知識や技能の習得、意義と役割の理解、実践的な態度の育成であって、具体的な学習内容については既述したとおりだが、従来行われてきた作業学習では目標の達成にかかわる中心的な学習内容であった。

将来設計能力の観点では、作業活動において自分の果たすべき役割の理解と実行が多かった。

意思決定能力の観点では、選択(決定、責任)、目標設定、肯定的な自己評価が各作業班のものの作りの学習内容に多く関連付けられた。これらの観点が、[流通・サービス]の学習内容に関連付けられることは少なかった。

もの作りとは対照的に、[流通・サービス]の4分の1の学習内容に場に応じた言動が位置付けられた。これは、販売の接客応対(挨拶や声かけ、お辞儀の励行)で培われる。また、木工班では、販売活動中にメンバー(販売スタッフ)と必要なコミュニケーションを取る協力・共同も関連付けられた。

IV. 考察

1. もの作りに[流通・サービス]の販売等の学習内容を付帯することの意義

A校では、もの作りに販売などの[流通・サービス]の学習内容を付帯し作業活動を展開しているのが特徴的である。販売の学習内容は、人間関係形成能力、観点で言えば、場に応じた言動を育てることができる絶好の機会である。接客応対、商品の受け渡し、金銭授受によって、他者とのかかわり方やコミュニケーション能力の向上を図ることができる。

人間関係形成能力は、「キャリア発達段階・内容表(試案)」では、<人とのかかわりー自己理解・他者理解>の系列と、<集団参加ー協力・共同>の系列、<意思表示>の系列、<挨拶・清潔・身だしなみー場に応じた言動>の系列が

設定されている。各観点は相互に関連しあって高められると考えられる。人間関係形成能力とその観点は、知的障害特別支援学校の小学部や中学部の段階で育てたい力で、日常生活の指導、遊びの指導や生活単元学習では中心的な学習内容に関連付けされる。さらに、中学部や高等部段階において、意思表示と場に応じた言動は状況に応じた他者とのかかわり方やコミュニケーション能力に他ならない。中学部・高等部では、教育課程の中で作業学習の授業時数が多い学校が多いが、作業学習の中心的な目標の一つとして重視して取り上げたい。

従来、作業学習の中での意思表示と言えば、生徒による報告、連絡、相談が中心であって、卒業後の就労の場でうまく適応していくためにきわめて重視される学習内容であった。これに対して、近年、卒業時点で接客や対人業務などのサービス業に就労する者も増えて、様々な学習場面でコミュニケーション能力の向上が目指されているが、作業学習の販売活動の実際的な接客応対などは絶好の学習内容である。

もの作りに[流通・サービス]の学習内容を付帯し、製造・生産から販売・消費までの一連の学習を行うことは、製造・生産者から消費者にわたるまでの物流について学ぶ機会になる。売れ行きや分析や消費者の声を聞いたりする学習内容を入れることで、製品・生産数の目標の設定を行い、もの作りに取り組む設計を意識させることができる。キャリアの側面である、自己と働くこととの関係付けや価値付けの累積に近づくことでもある¹⁾。

キャリア発達の視点を持ってみれば、職業的(進路)発達にかかわる諸能力や各観点は相互に深く影響を与え合うものであり、特定の能力の伸長を図るという考え方ではなく、すべての段階(学年)において総合的に発達させることを目指すものである。それゆえに、教育課程の全体や各教科等でバランスよく培うことが重要であると

考える。作業学習のもの作りでは、商品管理、販売、事務の学習内容はもの作りの学習内容と比べ、培う諸能力や観点が異なるものもあるので、もの作りにそれらを付帯することの意義がある。

2. 将来設計能力や意思決定能力、それらの観点に関連付けされる学習内容の意義

将来設計能力は前向きに自己の将来設計をする能力で、園芸班、印刷班、縫製班の学習内容に多かったが、様々な作業活動において達成感や充実感、働く喜びを感じる経験を積み重ねることを通して、自立した作業活動を送るための必要な役割遂行のスキル、及び職業生活に必要な習慣形成のためのスキルを身に付けるものである。学年末に行われる個人作品製作は生きがい・やりがいに関連付けられた。個人作品の製作を通して、働くことの喜びや満足感を味わわせて、職業や働くことの意義とよりよい生き方をするに結びついていくことの必要性を示す観点である。

意思決定能力は自らの意志と責任でよりよい選択、決定を行うとともに、その過程での課題や葛藤に積極的に取組み、克服する能力である。木工班、窯業班の学習内容に多く位置付けられているが、生徒がよりよい選択、決定するスキルを身に付けるとともに、選択に伴って実行することを通して責任を果たすことの意味を理解することである。また、自らの判断で目標を決めること及び結果に対して自ら評価するためのスキルを身に付けることである。観点は選択(決定、責任)、目標設定、肯定的な自己評価が各作業班のものづくりの学習内容に多く関連付けられた。

ただし、A校の〔流通・サービス〕の学習内容に将来設計能力や意思決定能力に関連付けられるものは少なかった。木工班と窯業班では、年間の題材ごとに学習内容が設定されているが、他の班では少なかった。販売活動の前後の商品管理や事務の学習内容の時間数が少ないことが指摘できる。各作業班では販売、商品管理、

事務の学習内容は行っているが、もの作りほど、目標設定、役割分担などについての学習は少ないことが分かる。

特別支援学校(知的障害)高等部におけるキャリア発達の目標設定を加えた、個別の指導計画の作成

I 目的

特別支援学校(知的障害)高等部の作業学習において、勤労観・職業観の育成につながるキャリア発達の視点から、個別の指導計画の目標の設定と具体的な学習内容の記述を試みた。目標設定にあたっては、国立特別支援教育総合研究所(2008)が、知的障害のある児童生徒の「キャリア発達段階・内容表(試案)」(以下、「発達段階・内容表」という)で示した、小学部・中学部・高等部の各段階において「育てたい力(観点)」を指標として活用の方角を見出そうとした。

II 方法

軽度の知的障害生徒を対象とするA県立B特別支援学校C分校の高等部に試行的な取り組みを依頼した。半期ごとの個別の指導計画の作成にあたって、「発達段階・内容表」の18の「育てたい力(観点)」を指標として、事例生徒4人(1年生2人、2年生2人)について、各担当教師に「主の目標」と「従の目標」をそれぞれ5つまで列挙することを依頼した。さらに、その各目標にそって個別の指導計画の作成を依頼した(平成〇年度前期～〇年度前期の3期)。以上の取り組み状況について、適時、作業班の担当教師(5人)から聞き取りをした。

III 結果

(目標設定の変容)4人の生徒について、総じて1年半の間(3期)、目標(「育てたい力」)はあまり変わっていない。3期を通じて、「主の目標」(4つ)が同じである生徒もいた。ただし、同じ目標でも、中学部段階から高等部段階の目標に上がったものもあった。また、学年が上がる際に新た

な目標が設定される場合もあった。

担当教師からは、「発達段階・内容表」には 18 の「育てたい力」があって、生徒の全体像からキャリア発達の目標を確認することができるという聞いた。

(個別の指導計画の作成) A男(現2年生)の平成〇年度の個別の指導計画(作業学習と進路学習や現場実習に関連した職業科を記載)を見ると、A男は「エコ平板」と「クラフト」の2つの作業種に取り組んでいるが、各作業種に関する基礎的、基本的な知識、技術の習得や実践的な態度(これらは《情報活用能力》の「情報収集と活用」にあたる)の他に、《人間関係形成能力》や《将来設計能力》、《意思決定能力》に関わる「育てたい力」が目標に挙げられている。また、担当教師の違う2つの作業種の間でA男の目標が共有されていることも指摘できる。

IV 考察

(指標の活用) キャリア発達に基づく、作業学習における目標の設定にあたり、「発達段階・内容表」の「育てたい力(観点)」を指標とすることができる。さらに、「育てたい力」ごとに段階的な目標を設定する必要があるが、キャリア発達に基づく目標の設定は個別の指導計画の中の年間計画や単元(授業)における具体的な学習内容を選定し、支援の手だてを明確にすることにつながる。

(学習内容の検討) ものづくり(製作・生産)の学習内容の他に、生徒の主体性に基づく、製作物を決めるための意見やアイデアの表出と話し合い、目標設定や作業分担の決定、共同・協力による作業活動、地域での販売活動、作業活動や製作物の出来映えに対する自己評価や振り返り、などを設定すると、ものづくりだけによる知識、技能や態度の習得だけでは培えない、意思決定能力や将来設計能力、人間関係形成能力の育成に直截的につながる。キャリア発達に基づく、目標設定を行うことでその目標達成に適

切な学習内容を具体的に検討する機会となる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① 渡辺 明広 キャリア発達の視点からみた、特別支援学校(軽度知的障害)高等部の作業学習におけるものづくり(製作・生産)と[流通・サービス](商品管理、販売、事務)の学習内容の分析—学習内容と職業的(進路)発達にかかわる諸能力や「育てたい力(観点)」の関連づけをとおして— 発達障害研究 第34巻 2号 2012 pp.1—pp.13 査読有
- ② 渡辺 明広 特別支援学校(知的障害)における教科「福祉」の展開と課題—先行的な指導実践(学習内容、指導計画)についての調査をもとに— 発達障害研究 第31巻 5号 2009 pp.413—pp.424 査読有

[学会発表] (計4件)

- ① 渡辺 明広 キャリア発達の視点による目標を加えた個別の指導計画—作成した教員に対する、意義や成果、課題についての聞き取り— 日本特殊教育学会第49回大会発表論文集 2011.9.24 p.537 (弘前大学文京町キャンパス)
- ② 渡辺 明広 作業学習課題における判断力等の育成と支援の方法—軽度の知的障害生徒を対象とした特別支援学校高等部の指導実践とキャリア発達の視点からの考察— 日本特殊教育学会 第48回大会発表論文集 2010.9.18 p.135 (長崎大学文教キャンパス)
- ③ 渡辺 明広 特別支援学校(知的障害)高等部におけるキャリア発達の目標設定を加えた、個別の指導計画の作成 日本発達障害学会 第45回研究大会発表論文集 2010.9.5 pp.260—pp.261 (東海大学湘南校舎)
- ④ 渡辺 明広 特別支援学校(軽度知的障害)高等部の作業学習における、作業分担を決める話し合い活動や目標設定、自己評価や振り返り等の学習内容・活動の意義—キャリア発達の視点から 日本職業リハビリテーション学会 第38回神奈川大会プログラム・抄録集 2010.8.27 pp.164—pp.165 (神奈川県立保健福祉大学)

6. 研究組織

(1) 研究代表者 渡辺 明広
(WATANABE AKIHIRO)

研究者番号：30310923